

全校の皆さん、おはようございます。

そして、中学生の皆さん、ようこそ伊那西高校へ。この放送は「朝の法話」と言いまして、毎週金曜日に放送されます。瞑想の姿勢で心を落ち着け、聞こえてくる法話の言葉に耳を傾けてください。

さて、皆さんは、昔話の「ウサギとカメ」という話を知っていますか？

ウサギとカメが、丘の上に立てられた旗を目指して競争し、途中でウサギが道草をしたり、昼寝をしたりしているうちに、カメがウサギに勝ったという話です。

この「ウサギとカメ」の話は、たゆまぬ努力の大切さを教え、最後にはそれが勝利につながることを教訓としたものなのでしょう。

この話について、ある先生は、次のようにお話されました。

「ウサギがカメに負けたのはなぜか。それは、ウサギはカメを見たからである。カメは丘の上の旗だけを見ていたように、自分の目標に向かって、ひた向きに歩いていた。カメにとっては、ウサギに勝つことよりも、自分のできることをやることのほうが尊かったのではないかと思う」

一方で、このお話を外国の人に聞かせると、異なった反応が返ってくると言います。それは、カメの行為についてです。なぜカメは、寝ているウサギの横を素通りしたのか。そこが腑に落ちないようです。

カメは、ウサギの病気やけがを疑わなかったのか。また、寝たままのウサギに勝って、満足なのか——など、いろいろな意見が出たと言います。また、ウサギのように、丘の上に立てられた旗をめがけてひたすら走るのではなく、道端に美しい花があればそれを愛で、泉があればそのほとりを散策するなど、好奇心いっぱいに行動する。それもまた良いものではないか、という意見もありました。

一つの話でも、いろいろな見方があるように、私たち人間は、生まれ育った環境や境遇、そして考え方もそれぞれ異なります。そうした違いが、その人自身の「モノサシ」となり、私たちはさまざまなことを認識しています。

私たちが人生の中で、いろいろな苦しみや悩みに出会ったとき、ものの見方を変えることによって、見えなかったものが見えたり、気づかなかったことに気づかされたりすることがあります。

そうやって、自分の「モノサシ」が問い返されることによって、新たな世界が開かれてくるのかもしれない。